

三軒長屋

この長屋には、村下と事務員のための独立した居住区がある。小さな区画には家族全員が住み、長屋の住人は全員、2 か所ある村の共同浴場を利用した。貸し切り風呂は、副支配人とその家族、および村下だけが利用できた。

住居と多額の維持費は、菅谷製鉄所の所有者である田部家が負担していた。こうした基本的な生活必需品を提供することで、労働者がこの地域の他の製鉄所で働くのではなく、村にとどまってくれることを期待していた。

番頭が部下を指揮して製鉄所の業務を処理する一方で、村下は鉄鋼生産に関連するすべての技術的側面に責任を負っていた。村下は、高殿の地下構造が適切に構築されていることを確認し、各作業の前に粘土炉を構築し、炉に砂鉄と木炭をどれだけの量、いつ加えるかを決定するという困難な仕事を担っていた。

こうした知識の多くが企業秘密とされ、選ばれた人にしか共有されなかった。田部家が製錬の指揮を執る熟練した村下を確保し、定着させることにこだわった理由のひとつがここにある。